

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200248		
法人名	社会福祉法人 和福社会		
事業所名	グループホーム庄の里「なごみの家」		
所在地	倉敷市西尾11-1		
自己評価作成日	平成22年3月16日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3390200248&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3390200248&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年3月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく家庭的で、人間味あふれる雰囲気作りに励みます。挨拶・笑顔・やさしさ・親切またサービス計画に心を元気にするメニューを取り入れ、その人の生活を心をこめて援助する」を施設理念・運営の基本としています。  
共有場所は木を基調とし、天窓を設け、温かみのある空間を設けています。  
入居者様が住み慣れた地域で生活することを支援しており、食材や美容院等は近隣の商業施設を利用しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを持ちながら利用者主体で過ごせるホームを目指して、特養を営む代表が田園の広がる地元で設立したホームである。開設から2年半で、職員の異動は多かったが、ケアサービスの内容は少しずつ整ってきた。利用者には楽しみや生きがいとして、役割や手伝いをしっかりしてもらっている。職員は利用者には声かけしながら、その思いや行動に常に配慮し、気持ちを十分に受け止めている。利用者は励まされて頑張ったり、聞いてもらって納得したりして、楽しく充実した生活を送ることができている。記録類は個人・業務・会議など詳細明確であり、今後の見直しや発展に役立つと思われる。運営推進会議を通じて地域交流にも少しずつ取組み、地域や小学校の行事に参加する計画である。今後は災害対策として、地域の協力を得る取組みもしていきたい。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、全体会議等の時に、再確認している。	利用者主体の住みやすい場、地域に密着したなじみのある場として、入ってよかったと思えるホーム作りを目指す、理事長・管理者の思いを職員も理解して、ケアの向上に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑作業の時や散歩の時に、近所の方と挨拶や世間話をしている。地域の方にボランティアに来ていただいている。定期的なボランティアの方が少ないので、もっと増やしていきたい。	散歩時に近隣との挨拶をするほか、アコーディオンなどのボランティアや職員の子供達が来てくれたりする。地域も参加する法人の文化祭に貼り絵を出展した。地区や、小学校の行事参加などを計画している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、なごみの家を知っていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、「なごみの家」の活動状況や様子を伝えることができている。また様々な助言をいただいている。頂いたユリの球根を大切に育てている。	2ヶ月に1回民生委員・家族・包括支援センターなどに参加してもらい、運営推進会議を開催している。議事内容や意見を記録している。ホームの現状報告のほか、地域交流への相談など少しずつ効果を挙げてきている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で民生委員・土木委員・地域包括支援センターの方に参加していただき、事業所の取り組み等を伝えている。	運営推進会議に参加してもらうほか、市の相談員に毎月1回来てもらい、利用者や職員の話聞いてもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束について勉強会を行なっている。またマニュアルを作成し、事務所内にいつでも閲覧できるように置いている。緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書を作成しており、行なう際には家族に同意をいただくようにしている。	身体拘束について法人で取り組み、マニュアルを作成し研修に努めている。拘束するつもりではないが、安全のため、玄関は自動的に鍵がかかる仕組みになっている。玄関の靴箱にセンサーがあり、出かけるときチャイムが鳴る。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束・虐待について勉強会を行なっている。また高齢者虐待防止に関する資料を、事務所内にいつでも閲覧できるように置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人・中途研修、施設内研修で権利擁護等について勉強会を行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名を行っていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様から要望や意見を述べやすいように、玄関に意見箱を設置している。投函されていたことはなく、運営に関する意見・要望は聞かれたことがない。	運営推進会議にはいつも同じ家族に参加してもらい、意見ももらうが、そのほかの家族から意見をもらう機会が少ない。面会の多い家族もあるが、行事に呼びかけても参加者は少なく、必要な時は手紙や電話をする。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議に理事長・管理者は参加し、職員の意見や要望、質問に答え、反映させている。	全体会議やユニット会議を行い、職員の意見を聞き、記録している。職員ユニットノートがあり、意見などを書いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々個人目標を立て、その達成度を賞与に反映させている。また、勤務態度も昇給に反映されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受け、学んだことを管理者や職員に活かすものになるように指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や外部との交流の場に参加させ、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入居者様の情報を職員に把握させている。 環境(場所や人間)が変わったので、コミュニケーションの場を増やし、馴染みの関係になるように尽くしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に家族様の本人様への思いや要望、不安に思うこと等を伺い、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時に家族様の本人様への思いや要望、不安に思うこと等を伺い、それに沿ったケアプランや処遇を実施している。改善点があれば、カンファレンスを行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場に立った考え方、ケアを行うように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との絆を大切にするため、毎月家族様に入居者様の様子を手紙で伝え、行事には参加を呼びかけたり、入居者様から要望があれば、家族に電話をかけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が以前利用していたサービスの利用者や職員と交流が図れる場を設けている。 また、昔からのかかりつけ医を利用されている方もおられ、馴染みの関係・環境を保っている。	利用者が地域の人が多いので、地域との馴染みがあり、近所の人や馴染みの医師との交流ができることや地元の商業施設などが楽しみである。一方で家族間の問題などもあり、難しいこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、フロアでの席の場所を配慮したり、職員が間に入るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、職員と入居者様と面会に行き、交流を図っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや生活歴などから、本人様の意向にあったものを知り、実行している。 (畑仕事、生け花、外出等)	フェイスシートの生活歴などを十分に理解し、利用者や家族の話聞き、思いを把握し、希望に沿えるよう努めている。フェイスシートには時々の変化を追加記録している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報、入所時の事前情報、入居者様とのコミュニケーションを通して把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の言葉、行動を観察し、記録に残し、職員の情報の共有を行なっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気づきを出し合い、介護計画に反映させている。 モニタリングにより介護計画の見直しを行い、より良い生活が送れるように支援し、記録に残し活用している。	ケアプラン作成時・見直し時にはサービス担当者会議を開き、本人と家族の思いをよく聞き、モニタリングにより、新たな支援目標・日課などを決める。支援内容は具体的な内容となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を活かし、日々の体調や生活の変化を見逃さず、介護につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や介護の家族のニーズを聴き、カンファレンスにより、そのニーズに添えるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の外出する機会を増やし、地域資源を利用し、入居者様と地域の方との交流を大切にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日対応していただけるクリニックを協力医院としている。些細なことでも電話相談にのっていただけるので、入居者様や家族、職員も安心できる。長年利用されている病院を利用されている入居者様もおられる。	提携医院が月2回定期的に往診に来てくれる。24時間対応してくれるので、心強い。そのほかの医師を受診する場合は家族にお願いするが、職員が付き添うこともある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故があった際には、必ず看護師に連絡し、指示を仰いでいる。状態によっては、看護師から協力医院に連絡し、往診を依頼している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時には、面会に行き、病状や様子について病院関係者、家族から情報収集を行なう。退院前には、カンファレンスを行い、ホームで対応できるように体制を整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針を作成している。地域の関係者と一緒に取り組みしていないので、改善点を検討していきたい。	入居時に終末時の方針について話を聞くようにしている。ホームでは医療行為が出来ないので、家族や医師と話し合いながら、出来る範囲で終末のケアを行う。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や施設内で事故発生時の対応について、研修をおこなっている。また事務所内にマニュアルを置き、職員がいつでも観覧できる状態にしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼夜想定)避難訓練、水消火器により消火訓練を実施している。消防局、防災会社の方にも協力していただき、通報訓練も行っている。地域との協力体制はできていないので、課題である。	緊急通報装置は設置し、22年度中にはスプリンクラーも設置する予定である。利用者も参加しての避難訓練を年2回実施している。今後は地域住民に支援を呼びかけていきたい。	災害時に近隣住民の支援が得られるように、運営推進会議で話し合ったり、直接住民と話し合い、避難訓練にも参加してもらおうようにしておきたい。避難経路の想定も検討しておきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人ひとりに合わせたケアを行い、プライバシーに配慮している。	入浴や排泄の介助に男女の職員による役割を考慮したり、部屋に入るのを拒む利用者には家族との話し合いをお願いしたりしている。無理な話でも人格を尊重して、ゆっくり聞いたり話したりして納得してもらっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活を大切にして、入居者様に寄り添い、自己決定出来る様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意思を尊重出来る様に訴え時は傾聴し、居場所を見つけられる様に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が好む服を着ていただいている。組み合わせや薄着である時等は、自尊心を傷つけない声掛けを行い対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には、入居者様に食べたい料理を聞いたり、一緒に買い物に行った時に食べたいものがあれば購入している。嫌いな献立がある方は、別献立に変更している。	献立は担当者が毎月考える。買物や調理にも利用者が参加している。皮むき・配膳など多くの利用者がその人にできる役割をし、出来上がった食事を一緒に挨拶して楽しく食べる。小さく切り分けている人もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつの際には水分、汁物を飲んでいただくよう声をかけ、食事量・1日の水分摂取量をチェックしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い、自力でできる方には自分で口腔ケアを行っていただき、職員が磨き上げを行なっている。協力歯科医、歯科衛生士に食事形態や口腔ケア方法について指導を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオシメを使用している入居者様を、昼間は定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄機能を維持できるように努めている。	排泄チェックを行い、人によっては時間的に声かけしたり、誘導したりしてトイレでの排泄を促している。いる。自立と思える人でも、後で確認している。精神的に落ち着きによって排泄が改善した人もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を摂取していただいたり、排便が2,3日見られないときは、運動や冷たい牛乳を飲んでいただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回入浴日を決めているが、入居者様の希望があれば、入浴日以外にも入浴を行っている。入浴は昼間に行っているが、夜間浴を希望される入居者様には、夜間入浴していただいている。	1日おきに交代で入浴している。拒否者はほとんどいない。気分を変えればほとんどの人がその日のうちに入浴する。1人ではいやがっても、仲良しと2人でなら入浴する人もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムに合わせた対応を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されれば、薬の名前・用法についてはその都度確認し、理解している。新しい薬が処方された時は、記録を細かくとり、主治医・家族に伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入居者様が多いので、家事作業は好んで行っている。手芸や生け花、貼り絵等を職員と一緒にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や外食に個別対応したり、法事への付き添い、外泊支援を行っている。	食材の買物に利用者もついて行き、化粧品など自分の買物をする。2～3人ずつで出かけたり、個別の対応をしたりしている。ユニット全員で花見に弁当を持参してでかけたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失やトラブルにならないために、入居者様に合わせた支援を行なっている。職員と一緒に外出し、好きな物を購入されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から家族や知人に電話をかけたいと申し出があれば、かけてもらっている。家族と手紙のやり取りを行なっている入居者様もおられる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものや、みんなで作成したものを展示している。玄関には、入居者様が生けて下さった生け花を展示していることもある。	広いリビングは大きな窓と天窗ととても明るい。ソファや畳の間もあり、色々な場で居場所をつくることができる。トイレは3ヶ所で、男女兼用である。ウッドデッキがあり、外も楽しめる。作品や行事写真を掲示している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングの席の場所を配慮し、気の合う入居者様と過ごせるようにしている。寒がりな入居者様には、日が良くあたるソファの場所やこたつを勧めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた馴染みのあるものを持って来ていただくよう話している。認知症の症状によっては配置の工夫を行なっている。	居室は広い。ベッド・洗面所、エアコン等が共通だが、人により置いているものがちがう。家族と職員とで話し合って部屋作りをしている。フックレールがあり、写真や額・服などを掛けられる。窓からは田園風景が望める。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常、一緒に料理や洗濯等行っている。体力に合わせて工夫している。		